

第1学年 算数科学習指導案

日 時 平成29年10月13日(金) 5校時
児 童 15名
場 所 1年教室
指導者 盛合 ゆか

1 単元名 「13 ひきざん」(東京書籍「あたらしいさんすう」1年)

2 単元について

(1) 教材について

本単元では、繰り下がりのある減法の考え方を減加法と減々法の2つ指導する。減加法は、被減数を「10といくつ」とみて10から減数をひく方法で、10に対する補数を確実に言えるようにしておきたい。一方、減々法は減数分解による方法で、被減数の一の位の数を見て、減数を「いくつといくつ」のように分解できるようにしておくことが大切になる。

そこで、10までの数の合成・分解の学習を生かし、半具体物を用いた活動などを通して1位数をひく繰り下がりのある減法計算の仕方を考え、操作しながら計算の手順を話せるようにし、それらの計算が確実にできるようにしたい。

(2) 児童について

児童はこれまでに、数の意味と表し方について、第3単元「いくつといくつ」において、1つの数を合成や分解により構成的にみることを学習してきた。また、第6単元「10よりおおきかず」において、「十いくつ」を「10といくつ」ととらえる学習をしてきた。このような見方は、繰り下がりのある減法の計算の仕方を考える際の素地としても重要な内容である。

レディネステストの結果から、20までの数の合成・分解でつまづいた子が20%(3/15人)おり、減法の文章問題から立式できなかつた子が20%(3/15人)いた。この結果を踏まえて、繰り返し指導しながら理解させていきたい。

3 単元の目標・本単元の学習の関連と発展・単元の指導計画(別紙)

4 本時の指導

(1) 本時の目標

- ・11～18から1位数をひく繰り下がりのある減法計算で、減数を分解して計算する方法(減々法)があることを知り、計算の仕方についての理解を深める。(数学的な考え方)

(2) 評価規準

評価規準	努力を要する児童への手立て
・被減数や減数の大きさに関係なく、被減数を10のまとまりといくつに分けて計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。(発表・操作活動)	・具体物を使って操作しながら考えさせ、ブロック操作をしながら話すことができるようにする。

(3) 本時の指導にあたって

ア 本校の視点に関わって

A 算数的表現力の育成について

- ・ブロック操作を何度もすることによって、計算の手順を話することができるようにする。

B 学び合いの充実について

- ・聞く役と答える役に分かれ、相手に話すことによって、計算の手順を理解させる。

イ 遠野中学校区の視点に関わって

① 課題意識の持続

ア 具体物を使って、減数をどこから取るかを考えさせることによって、減減法の考えをひき出す。

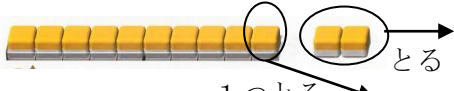
イ どこからとるのかをブロック操作をしながら考え、手順を繰り返し話すことにより、課題意識の持続を図る。

② 達成状況の把握

ア ブロック操作をしながら、手順を唱えることができたか確認する。

イ 聞く役と答える役になり、ペアの相手がブロック操作をしながら計算の手順を言えることを確認する。

(4) 展開 (6 / 13 時間)

段階	学習活動および学習内容	指導上の留意点・評価および支援
導入 (10分)	<p>1 問題を把握する。</p> <div data-bbox="252 203 759 293" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> おかしが12こあります。3こたべると、のこりはなんこですか。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・式 $12 - 3$ <p>2 本時の課題をとらえる。</p> <div data-bbox="252 394 759 483" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> $12 - 3$のけいさんのしかたを、かんがえよう。(いままでとちがう) </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・問題文を読み、題意をとらえ減法であることをおさえる。 ・今までと違うところをおさえる。 ・前時を想起させながら、減加法で考えてみる。 <ul style="list-style-type: none"> ・具体物を使って、減数の3をどこから取るかを考えさせる。 《①ア》
展開 (20分)	<p>3 見通しを持つ。 ＜答えの見通し＞ ・9こ</p> <p>＜解決方法の見通し＞ ・ブロック</p> <p>4 課題を自力解決する。 ＜期待する児童の考え＞</p> <div data-bbox="252 808 759 1025" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>・ブロックで $12 - 3 = 9$</p>  <p style="text-align: right;">とる</p> <p style="text-align: center;">1つとる</p> <p>こたえ 9こ</p> </div> <p>5 学び合い</p> <p>(1) 全体学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック操作をしながら説明をする。 <p>(2) ペア学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友達にブロックを操作しながら手順を話す。 <p>(3) 全体学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ブロック図に書き込む。 <p>6 学習のまとめをする。</p> <div data-bbox="252 1496 759 1585" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> 10といくつにわけて、ばらからひくこともある。 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・自力解決のできない子には、具体物を操作しながらどこから食べるか確かめ、どこから引くかを考えさせたい。 <ul style="list-style-type: none"> ・算数ブロックを操作しながら、計算の手順を話させ、何度もくり返し練習させる。 《①イ》 《A》 ・聞く役と答える役になり、ペアの相手がブロック操作をしながら計算の手順を言えたことを確かめる。 《②イ》 《B》 ・操作した手順を言いながら、ブロック図に書き込ませる。
終末 (15分)	<p>7 適用問題に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ $13 - 4$ <p>8 学習の振り返りをする。 ＜期待する児童の反応＞</p> <div data-bbox="252 1850 759 1984" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ばらからとってもいいことが分かった。 ・ $12 - 3$の3をわけてけいさんすることが分かった。 </div> <p>9 次時の学習の見通しをもつ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・算数ブロックを操作しながら、計算の手順を説明する。 《②ア》 <div data-bbox="788 1682 1442 1832" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>(考) 被減数や減数の大きさに関係なく、被減数を10のまとまりといくつに分けて計算の仕方を考え、言葉やブロック操作などによって説明している。(発表・操作活動)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・式の減数に着目して、どちらを使えば考えやすいかにふれ、減々法と減加法の違いに気づかせたい。 ・次時は、計算練習をすることを伝える。